

## まちづくりカフェとあさ第3回開催結果

### ■開催概要

＊目的～このワークショップは、地域住民を主人公とした持続可能な地域づくりの将来目標を描く地区別計画(協働実行プラン)の策定やそのプランの運営を行う地域運営組織の設立に向けた取り組みの一つに位置付けられています。そこで今後のプラン作りに反映してくために、少子高齢化や遠浅小学校閉校に伴うコミュニティ機能の低下などの課題について、地域住民同士が率直な意見交換をし、共有する。

### ＊参加状況

日付	時間	場所	来場者	ワークショップ参加者
R6.10.5(土)	18:30～20:30	遠浅公民館	大人 20 名、 子ども 7 名	大人 20 名、 小学生 3、高校生 2 名

### ■次第「ワークショップはワールドカフェ方式で実施」

・チェックイン「自己紹介、いまの体調、秘密基地の思い出」

・各世代ごとに分かれてグループワーク

1.子ども世代「子どもたちのやりたい!」ができるまちになるために、困っていること、必要なことは?

2.子育て世代「子育てに協力できる地域になるために、困っていること、必要なことは?

3.ミドル世代「この会議に参加していない人たちも巻き込んで地域を作っていくために、いま困っていること、必要なことは?

4.シニア世代「年を取っても暮らしやすいまちになるために、困っていること、必要なことは?

・チェックアウト「今日印象に残ったこと」→1人1枚(A4サイズ)に書いて提出していただく

### ■チェックアウト時の記入用紙から(抜粋)

・高齢者宅の除雪が中高生のマンパワーで実現できるうれしい(シニア世代)

・交通手段、(老人と若い人の)交流の場を多く、ゴミ拾い活動の連絡の仕方(シニア世代)

・ゴミ拾い時間帯を見直し、若い世代も環境問題に大いに関心があるので皆が参加できるよう考えたい(シニア世代)

・なかなか外に出ない高齢男性がどうしたら出てくるか→趣味の教室、料理教室、歩こう会みたいな気軽に参加できるイベントの開催(シニア世代)

・どの世代も交流を欲している。→いかに場を作るか、どう周知するのかを考えていくのが大事。

・子ども会の運営が困難、東遠浅・源武地域なども含めた遠浅地区の拡張ができないのであれば

解散も視野に入れるべき。閉校・統合により問題が浮き彫りになってきている。(子育て世代)

・バスに乗っても帰ってこれない。交通面を改善するか、町内で足を運べる場所を作る。

・情報を受け取るシステム。住み続けられる町にするためにはどうすればいい？交流、移動ほか

・誰でも集まれる遠浅コミュニティセンター(公民館)を作れたらいいと思った(ミドル)

・遠浅から議員さんを！！(ミドル)

・環境を守るためにゴミ拾いをしたい。バスケットゴールを作るには、お金が必要。→「大人に頼っては。(子育て)

・子供に対してのイベントをいろんな世代の人でしていく。みんなで子育てができる町づくり。

・昔と今でイベントが無くなってしまった。情報が回っていない。(ミドル)

・楽しい女子会、男子会の開催→ワイン教室、ワイナリー見学

・小学校の時に行われていた行事をもう一度行いたい！(祭り、焼肉、餅つきなど)、バスケット

・秘密基地でみんなで集まれる場所(子ども)

・移動手段。卵が先か、ニワトリがさきか。⇔住人が増える、住みやすい環境(生活インフラ)

・ゴミ拾いイベントは交流の場(シニア)

・多世代交流。コミュニティ問題を解決する鍵(シニア)

・一つのことも色々な角度から見ると違う発想ができることを改めて思った。(シニア)

・子どもが町を作る、子どもが大人を動かす、子どもがきっかけで友達ができる。(子育て)

## ■今後の流れ

・11月5日 全体報告会、プラン案の作成

・1月末定 地域運営組織体制について

・2月末定 地域運営組織体制について、今後のスケジュールについて

・2月末定 集落支援員の募集

・4月末定 地域運営組織の立ち上げ









